

第70号 令和3年9月発行

良質の水稲種子生産

うえの すずむ
上野 進さん

京都乙訓管内では右京区の京北地域と嵯峨越畑、伏見区向島で水稲種子生産が行われています。

中でも右京区京北では今年、早生「コシヒカリ」約20ha、中晩生「ヒノヒカリ」7.2haを採種していますが、来年は早生の「京式部」も約2.9haで採種する予定です。

種子生産は充実した種籾を作るだけでなく、原種の取り扱い、漏生による異品種混入、雑草・病害対策にも細心の注意を払い、刈取も専用のコンバインを使用するなど大変手間のかかる仕事です。

京北地域での採種事業に当初の昭和40年代から携わっておられる上野進さん（ヒノヒカリ）と村山高さん（コシヒカリ）の種子生産技術は、令和元年度に京都府農山漁村伝承技能に登録されました。

むらやま たかし
村山 高さん

～今年から普及センターが取り組む活動～

普及センターでは令和3年度からの3年の計画を策定し、活動しています。今回はその活動の概要をお知らせします。

担い手の定着と経営向上への支援

就農前～就農後の段階別に、担い手の定着を目標に2本の柱を立てて活動しています。

①「新規就農者の営農継続に向けた支援」

就農5年目までの新規就農者の中から対象を絞り、単収等の単年度目標を設定・共有し、達成に向けて個別巡回を中心に営農継続の支援をしています。

また、就農希望者や準備中の人、就農間もない人を対象に、農業に必要な基礎知識を学ぶ講座を開講し、知識習得や仲間作りの機会を提供しています。



講座受講者同士の交流



個別訪問でアドバイス

②「経営力アップを目指す農業者への個別支援」

概ね就農5年以上で、経営の発展を目指す若手農業者を対象に、京都府農業会議と連携した個別訪問をしています。毎月の訪問を通じて、各々の農業者が抱える課題を整理し、単収や販売額等の目標を設定して、栽培技術の向上、販路開拓など経営改善に向けた課題解決の糸口になるよう支援していきます。

京式部及び特別栽培米の安定生産と米の緊急課題対策

①「採種地での新品種「京式部」試作」(対象：管内水稻採種部会6戸)

令和4年度から京都府オリジナル主食用米新品種「京式部」の採種を行う予定の農業者へ個別指導や技術資料の配付、現地研修会等を実施し、生産技術の向上を支援していきます。



「京式部」の生育調査(右京区京北)

②「使用資材や施肥方法の変更等による高温障害対策技術の検討」

(対象：特別栽培米重点農家9戸)

近年、高温による従来の主食用米品種の収量・品質低下が顕著になっています。施肥体系の見直しや植物活性剤の使用、害虫防除等により高温障害を軽減し、安定生産ができるように支援していきます。



「特別栽培米現地巡回指導」(左京区大原)

③「トビイロウンカに対する防除技術の検討」

(対象：管内水稻重点農家14戸)

昨年はトビイロウンカが20数年ぶりに多発し、甚大な坪枯れ被害を受けました。ウンカの定着・拡大はベトナム、中国からの飛来時期と飛来数に大きく影響されますので、調査ほ場を設けて発生状況の確認に努めていきます。

上記のほか、今年度は以下の課題にも取り組めます。

- ・ホオズキ栽培技術見える化
- ・ナスでの持続型土壌酸素供給剤の効果検証
- ・すぐき菜でのパーティシリウム黒点病防除
- ・ナスのタバコノミハムシの物理的防除方法の検討
- ・スクミリンゴガイ防除方法の検討
- ・水稻多収性品種「ほしじるし」の施肥法の検討
- 等

あなたの地域から広がる農作業安全

新たな特産品目の生産振興とスマート農業技術の活用による安定生産

①「京おくら出荷部会の生産技術の向上」

(対象：京おくら出荷部会員20名)

昨年度にJA京都中央の広域部会として京おくら部会が発足しました。今年度は展示ほの設置により、6月早期出荷技術や低木化仕立てによる作業の効率化を部会員に示し、安定生産を支援しています。

また、技術資料の配付や現地検討会、出荷研修会の実施により、生産、出荷技術の向上を進めています。



オクラ栽培研修会



環境測定装置を設置

②「環境測定装置を活用したブドウ、トマトの栽培技術の向上」

(対象：勧修寺樹園地組合ブドウ部会18名、山科区トマト生産者1名)

ブドウの施設及び露地栽培では夏期の高温障害対策、トマトでは施設栽培における生産安定対策として、環境測定データ(気温、湿度、地温(培地温)、土壌水分、日射量の5項目)を分析し、収量及び品質の向上を支援しています。

また、ブドウでは実証ほを設置して果実の傘かけを行い、高温障害回避を図ります。

ラック 農業のRACコードを活用して薬剤抵抗性の発達を抑えましょう!

同じ系統の農薬を繰り返し使うことでその農薬の効果が低下する「薬剤抵抗性の発達」が問題となっています。そのため、農薬を使用する場合には「作用機構」と「化合物系統」が異なる農薬を用いたローテーションを組むことが重要です。

しかし、農薬ラベルには商品名や有効成分は書いてあっても、作用機構は書いてないことがほとんどです。

そこで、利用されるのがRACコードです。

RACコードとは、農薬の作用点や作用機構から農薬の有効成分を分類したもので、RACコードが異なる農薬を使用することで容易にローテーションを組むことができ、薬剤抵抗性を防ぐことに役立ちます。

RACコードにはいくつか種類があり、殺虫剤(Insecticide)では「IRAC」、殺菌剤(Fungicide)では「FRAC」、除草剤(Herbicide)では「HRAC」といい、数字もしくは数字とアルファベットの組み合わせで表示されます。

RACコードの詳細については、農薬工業会ホームページの農薬情報局「農薬の作用機構分類」(<https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)に掲載されていますので、一度御覧ください。

農薬工業会リーフレット『RACコードを御存知ですか?』から引用



ラベル・チラシなどでのRACコード記載例	
殺虫剤分類 1B	製品は殺虫剤で、RACコードは1Bです。
殺虫剤分類 1A,14	2成分混合の殺虫剤で、RACコードは1A,14です。
殺虫剤分類 2B	殺菌殺菌混合剤で、殺菌成分RACコードが2B、殺菌剤成分RACコードは6です。
殺菌剤分類 6	
殺虫剤分類 1A,-	2成分混合の殺虫剤で、一方のRACコードが1A、もう一方はRACコードが決まっていません。

*全ての農薬製品にRACコードが掲載されているわけではありません。



農薬を適正に使用しましょう

地域で大活躍

「頼れる農業士さん」

つじい ながお
辻井 永雄さん(伏見区深草)

辻井永雄さんは、営農歴40年以上のベテラン農家で、現在は、家族4人でキュウリ、ネギ、キクナ、ハウレンソウを中心に栽培されています。

伏見区深草地域では、昔からキュウリ栽培が盛んで、今も10軒ほどの農家がキュウリを栽培されており、辻井さんはその中でも良き相談役として慕われています。

「農業は売れるものが変わっていくものなので、日頃の情報が重要」とお考えの辻井さんは、多くのお客さんに食べてもらえる野菜を作ることを心がけ、常に市場の動きを観察しながら、市場に求められるものを作るように意識されています。

また、JA農産物品評会で特別賞を何度も受賞するなど栽培・出荷調製の技術が高く、キュウリ栽培もトップクラスの腕前で、6月に行われたJA京都市深草支部の胡瓜立毛共進会では区長賞に選ばれました。

最近の楽しみは、お孫さんの高校野球を応援することで、その活躍を見るのがうれしいとおっしゃっていました。



京都乙訓地域農業士会の活動等

農業士とは

農業士は優れた農業経営を行い、また、地域農業の活性化に取り組むなど農業者のリーダーとして市町の推薦を受けて京都府知事から認定された農業者です。京都乙訓地域農業士会には指導農業士、青年農業士合わせて36名が所属しています。



近畿ブロック研究会



視察交流会

京都乙訓地域農業士会としては、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため昨年から十分な活動が実施できていませんが、毎年テーマを定めて研修会を開催したり、視察交流を行うなど樋口昌孝会長を先頭に自己研鑽や各々の地域での活動に取り組んでおられます。

令和3年7月27日、リーガロイヤルホテル京都で近畿ブロック農業士地域研究会が近畿各府県を結んでリモート開催され、「これからの農業労働力の確保について」をテーマに講演が行われました。京都乙訓地域からは7名の農業士さんが参加されました。

令和2年2月の女性農業士*視察交流会では茨木市の農事組合法人「見山の郷交流施設組合」を訪問し、直売や加工品の製造販売等、多彩な取組についてお話を伺いました。



夏季研修会

*女性農業士の呼称は令和2年度から指導農業士に統一されました。

京都府農山漁村伝承技能登録

花き生産技術

おおにし つねはる

大西 恒治さん(右京区嵯峨越畑 平成29年度登録)

大西恒治さんは、越畑地域の代表的な花きであるホオズキやオミナエシ等を約50年に渡り生産されています。ホオズキ、オミナエシともに地域への導入時から携わっておられ、地域の農家とともに生産量を拡大し、この2つを越畑の特産農産物として育成されました。優良な苗の選別や小まめな摘葉等の栽培管理、ほ場をよく観察された上での適切な病害虫防除等の高い栽培技術を持っておられ、鈴なりの真っ赤なホオズキや黄色の鮮やかなオミナエシ等、市場評価の高い高品質な花きを生産されています。



長年の栽培経験がありながらも、地域内外の農家との意見交換や勉強を欠かさず、常に技術向上を目指してチャレンジを続けられています。

また、所属する越畑花き生産組合内でも、組合員の生産・出荷技術向上のため日頃から助言を行い、風光明媚な『花のふる里 越畑』を守っておられます。

発行 京都府京都乙訓農業改良普及センター

〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺団子田町15 TEL 075-315-2906 FAX 075-315-2909
mail : kyoto-nokai@pref.kyoto.lg.jp HP : <http://www.pref.kyoto.jp/kyotootokuni-f/index.html>



QRコード